令和7年度 岐阜県林業普及活動意見交換会開催報告

1 日時

令和7年8月28日（木） 13:30～16:50

岐阜県立森林文化アカデミー テクニカルセンターA棟多目的研修室

2 出席者

意見交換会会員	5名	
林業普及指導員	26名	
森林研究所他	9名	合計40名

3 内容

(1) 林業普及実績発表

○林業普及指導員中部・北陸ブロックシンポジウム、岐阜県森林・林業関係合同発表会における発表者の選考を兼ねた実績発表を実施。

- ・発表1：揖斐地域の再造林の推進 ～シカ食害対策の現状と課題～
揖斐普及指導区（揖斐農林事務所 長屋 公三）
- ・発表2：郡上地域における再造林の推進
郡上普及指導区（郡上農林事務所 安田 浩介）
- ・発表3：獣害対策の再考 ～再造林を着実に進めるために～
東濃普及指導区（東濃農林事務所 長沼 慶拓）
- ・発表4：下呂市と連携した森林技術者育成
下呂普及指導区（森林文化アカデミー 藤井 敦）

○投票結果

発表者の選考は、外部有識者で構成される岐阜県林業普及活動意見交換会会員と林業普及指導員、若手職員育成メンバー等による投票により下記のとおり決定。

- ・林業普及指導員中部北陸ブロックシンポジウム（2025/10/2-3 岐阜県高山市）
東濃普及指導区 長沼 慶拓
- ・森林・林業関係合同発表会（2026/1/30 関市わかくさプラザ）
郡上普及指導区 安田 浩介

(2) 意見交換会

○委員からの主な意見、助言等

<揖斐地域の再造林の推進 ～シカ食害対策の現状と課題～ 長屋 Ag>

- ・ 獣害対策は、猟友会と連携し、林業事業者が罠の設置、捕獲を猟友会に依頼し、造林にかかるコストが抑制できないか。
- ・ 林業普及指導員が現場に出向き、現場で対策を指示したこと、事務所へ持ち帰り検討したことの課題解決の棲み分けが出来ている。
- ・ 獣害対策のツリーシェルターに種類があるため、それぞれで被害の差があったのであれば、教えてほしい。
- ・ 植栽地毎に、対策がどの程度良くなかったのかを具体的かつ系統的に整理されていると更に有益な情報になった。例えば、傾斜や積雪量、植栽時の下層植生の状態による被害の大小の情報を付加する。

<郡上地域における再造林の推進 安田 Ag>

- ・ 主伐と再造林の一貫作業を同じ事業体で行った方がプラスではないか。
- ・ 伐採する人と植栽する人が一貫作業になれていない。最終的な目標は、業者が伐採したら、直ぐ、森林組合が植栽できる連携が良い。
- ・ 森林・林業循環基金により造林予定地が綺麗になり、これにより省力化に繋がっていくと思われ、ドローン運搬を含めて、従来とどれくらい変わったかを教えてほしい。
- ・ 普及員の仕事は、地域の中の課題を地域の方と一緒に解決を図ること。普及員は他地域の事例をキャッチでき、更に県森林研究所の専門家のノウハウを地域に伝えることが出来る。郡上の発表はそれを実践している。

<獣害対策の再考 ～再造林を着実に進めるために～ 長沼 Ag>

- ・ 瑞浪市の捕獲頭数が増えており、猟友会の活動意欲が高いと感じた。県、市、猟友会の三者で捕獲を協力していけるよう取り組んでいただけたらと思う。
- ・ 本日の発表の4名のうち3名が主伐、再造林、獣害対策で、獣害対策については、県下全体でひっ迫している問題となってきた。
- ・ ヒノキの樹形異常が4割という結果は想像していなかった。単木保護資材を使う場合は、このような問題があるということを改めて認識した。資材の検討もしていただきたい。
- ・ 維持管理計画作成支援は大事な事、一つ一つの情報を記録として残し、この情報を野生動物の専門家と一緒に分析していく、空間的な配置と時系列を明確にしながら解析していくとすごく面白い、有用なものになる。

<下呂市と連携した森林技術者育成 藤井 Ag>

- ・ 消防署への間伐事業計画の事前提出は良い取組。現場で災害が起きた時、訓練どおりの処置ができないため、消防署とは予め、救急車の到着場所を決めておくことは大事。
- ・ 林業に就いていれば怪我は付き物という考えがあるが、怪我、事故をすることはプロではない、定年退職するまで五体満足でどこも怪我していないことが誇れること。
- ・ レスキュー訓練を各地で行っているが、回数を重ねないと馴染んでこない。実施回数を増やせると意識が変わってくるのではないか。
- ・ この発表では建設業界と消防署と人材の育成・確保、安全の確保の観点で結び付けが行われた。とても大事な取り組みで、効果を発揮していると思われたので高く評価している。